
第 433 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2025 年 3 月 7 日(金) 17 時 00 分~18 時 00 分

場 所: 30 年記念棟大会議室(常念)

演 者: 橋本 和彦 氏

東京歯科大学市川総合病院臨床検査科 准教授

口腔細胞診の実際

口腔は直視直達できる領域であるがために、口腔癌を含む口腔病変の診断の基本は視診・触診である。しかしながら視診・触診で良・悪の鑑別に判断に迷った場合、客観的に病変の推定を行える検査が口腔細胞診である。従来、口腔細胞診ではパパニコロウ分類による判定が行われていたが、2015 年、新しい報告様式が細胞診ガイドラインに設けられた。この新報告様式では、OLSIL/OHSIL は上皮性異形成、SCC は扁平上皮癌など判定区分ごとに推定病名が設定され、OLSIL/OHSIL/SCC の判定区分では高次医療機関での精査・加療が推奨されるなど診療指針まで示されたことが特徴である。病変を大まかに良性、中間的、悪性と推定するのみであったパパニコロウ分類と比べて、新報告様式はより実用的な仕様となった。

また、当院での検討では新報告様式の方がパパニコロウ分類よりも特異度は低いものの感度が高く、口腔がんや上皮性異形成の検出により優れることがわかっている。現状、口腔細胞診は扁平上皮癌や上皮性異形成の推定やスクリーニングとしての運用が原則であるが、近年臨床で受け入れられつつある蛍光光学機器や超音波検査などとともに、扁平上皮癌や上皮性異形成に対する低侵襲な診断ツールとして有用なのではないかと考える。

Matsumoto Dental University
Graduate School of Oral Medicine

1780 Gobara, Hirooka, Shiojiri,
Nagano 399-0781, Japan

【略 歴】

平成 17 年 3 月	東京歯科大学卒業
平成 17 年 4 月	慶應義塾大学病院歯科・口腔外科 研修医
平成 19 年 4 月	慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室 専修医
平成 20 年 4 月	東京歯科大学大学院歯学研究科(臨床検査学専攻) 入学
平成 23 年 9 月	東京歯科大学大学院歯学研究科(臨床検査病理学専攻) 修了 博士(歯学)の学位受領
平成 23 年 11 月	東京歯科大学臨床検査病理学講座 助教
平成 27 年 3 月	東京歯科大学臨床検査病理学講座 講師
平成 27 年 4 月	東京歯科大学市川総合病院臨床検査科 講師
令和 5 年 4 月	東京歯科大学市川総合病院臨床検査科 准教授

現在に至る

【資 格】

- | | |
|------------------------|----------|
| 1. 死体解剖資格(病理解剖) | 第 8892 号 |
| 2. 日本病理学会認定口腔病理専門医 | 第 171 号 |
| 3. 日本臨床細胞学会認定細胞診専門歯科医 | 第 8031 号 |
| 4. 日本口腔検査学会認定口腔検査学会認定医 | 第 33 号 |

担当:硬組織疾患制御再建学講座 村上 聡 教授